

「評価を授業にいかす」

— 目標準拠評価のテスト問題をつくる —

倉橋 忠

第Ⅰ部 基礎理論

- 1 テスト(定期考査)は、授業の到達点であり、学びの通過点である**
- 2 授業設計に教育目標ありき**
- 3 評価観の転換が授業観を変える**
- 4 評価の実践的課題**
 - (1) 妥当性と信頼性 … 客観性を構成する要素
 - (2) 実行可能性
 - (3) 成績管理の合理化 … コンピュータを使って合理的な成績管理

第Ⅱ部 テスト問題を作ってみよう

- 5 テスト問題(筆記試験)作成上の実践的課題**
 - (1) 基本的な視点
 - (2) 技術的な視点
 - (3) 著作権の制限
 - (4) 各観点の特徴
- 6 主なテスト問題(方法)の特徴**
 - (1) **完成法(補充法・穴埋め問題法)**
 - (2) **真偽法(正誤問題法)**
 - (3) **多肢選択法(択一・短答問題法)**
 - (4) **その他の短答式テスト法**
 - (5) **知識を与えて推論させる方法(自由記述法)**
 - (6) **作問法(自由記述法)**
 - (7) **認知的葛藤法(自由記述法)**
 - (8) **文章分析法(自由記述法)**
 - (9) **論文体テスト法(自由記述法)**
 - (10) **概念地図(マップ)法(自由記述法)**

1 テスト(定期考査)は、授業の到達点であり、学びの通過点である

◎ 子どもたちから見たら

- ・授業の「重要な部分」の理解をしているか否かを試されるのがテスト(定期考査)。
- ・「テスト」に出題されない「授業内容・がんばり」は、結果的に切り捨てられる。
- ・「授業」を受けなくても解答できる「テスト」であれば、「授業」を受ける必要はない。

2 授業設計に教育目標ありき

何を学ぶ授業かを、指導者が明確に意識することが基本。

授業設計（指導案）



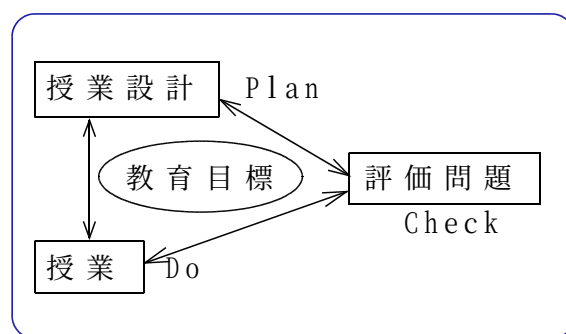
授業実践



評価問題（授業の成否の検証）



授業設計の見直し（回復指導）



3 評価観の転換が授業観を変える

① 4つの観点、一つの学力モデルを示したもの

② 子どもを序列化するテストから

授業の点検のためのテストへ

③ 4つの観点に分類された教育目標を設定しよう

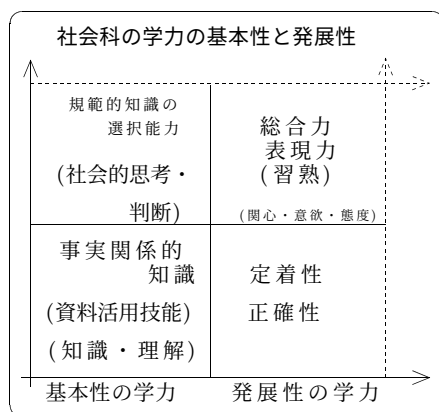


観点別評価のテスト問題の作成

④ 4つの観点は、独立していない



例：正確な知識・理解や資料活用技能・方法に基づいた思考・判断力



4 評価の実践的課題

(1) 妥当性と信頼性 … 客観性を構成する要素

① 妥当性 … 目的としている評価対象をどれほどよく評価しているのかを示す概念

内容的妥当性：評価内容が評価対象を的確に代表しているのかを問う概念

② 信頼性 … その評価がどの程度一貫して評価しているかを示す概念、いつどこで実施しても、その評価の精度が一貫していることを示すもの。

(2) 実行可能性

◎ 実践上、総括的評価に利用しやすいのは、「定式化」や「数量化」された評価方法

(3) 成績管理の合理化

① 観点別評価に対応した授業と「テスト」作成が、成績管理合理化の第一歩

② パソコンで管理する評価・成績 （ DataBaseソフトがベター、表計算ソフトでも可）

さまざまな評価方法

筆記による評価 (筆記試験、ワークシートなど)		パフォーマンスにもとづく評価 (performance-based assessment)		
		パフォーマンス課題による評価		観察や対話による評価
「客観テスト」式	自由記述式	完成作品の評価	実演の評価 (実技試験)	プロセスに焦点を あてる評価
☐ 多肢選択問題 ☐ 正誤問題 ☐ 順序問題 ☐ 組み合わせ問題 ☐ 穴埋め問題 ・単語 ・句	☐ 短文問題 ・文章 ・段落 ・図表 など <u>作問の工夫</u> ☐ 知識を与えて推論させる方法 ☐ 作問法 ☐ 認知的葛藤法 ☐ 予測－観察－説明(POE)法 ☐ 概念マップ法 ☐ ペン図法 ☐ KJ法 ☐ 運勢ライン法 ☐ 描画法	☐ エッセイ、小論文 ☐ 研究レポート、研究論文 ☐ 物語、脚本、詩 ☐ 絵、図表 ☐ 芸術作品 ☐ 実験レポート ☐ 数学原理のモデル ☐ ソフトウェアのデザイン ☐ ビデオ、録音テープ ☐ プロジェクト	☐ 朗読 ☐ 口頭発表 ☐ ディベート ☐ 演技 ☐ ダンス、動作 ☐ 素材の使い方 ☐ 音楽演奏 ☐ 実験器具の操作 ☐ 運動スキルの実演 ☐ コンピュータの操作 ☐ 実習授業 ☐ チームワーク	☐ 活動の観察 ☐ 発問 ☐ 討論 ☐ 検討会 ☐ 面接 ☐ 口頭試問 ☐ ノート・日誌・日記 Cf. カルテ、座席表
☐ ポートフォリオ評価法				

西岡加名恵「教育評価の方法」田中耕治編著『新しい教育評価の理論と方法 [I]』

日本標準 2002年10月15日 p.37 より引用

5 テスト問題(筆記試験)作成上の実践的課題

(1) 基本的な視点

- ① 授業内容(教育目標)を正確に測定するテスト問題であること(妥当性)。
- ② 授業で指導したことか、その応用問題のみを出題するテスト問題であること。
- ③ 授業の成否(定着度・理解度)を点検するテスト問題であること。
- ④ アカウンタビリティに耐えられる(対応できる)テスト問題であること。

(2) 技術的な視点

- ① テストを作成する時間(完成法や論文体テストは、簡単に作成でき、時間もかからない)。
- ② 採点に要する時間と客観性(完成法や多肢選択法は、採点が早く、採点の信頼性は高い)。
- ③ 測定する内容の問題(基本的な概念や事実をどの程度知っているかを調べるには、完成法や多肢選択法が適切である。統合や評価のようなさらに高度な認知過程を知るには、論文体テストが適切である)。
- ④ テストの難易度の設定(一般的な傾向を、難度低から難度高の順を → で示す)
記憶・理解を測定する側面：再認法 → 再現法
思考・判断を測定する側面：少量の情報 → 多量の情報
内容的な側面：単純な概念 → 複雑な概念、概括的な概念 → 瑣末(さまつ)な概念
これら以外に、テスト法との組み合わせによっても難易度は異なる。

(3) 著作権の制限

授業用の教材として利用する場合は、免責されていることが多い。

しかし、業者の「教材プリント」や「テスト問題」は内容を写すことも許されない。

(4) 各観点の特徴

- ① 知識・理解 … ある事柄(概念)についての内容や特徴の説明ができる学力内容。
- ② 資料活用技能 … 図版、地図、グラフ、統計資料、古文書などの社会的事象を示す資料を解読したり、その意味を説明できる学力。また、調査したことなどを地図やグラフなどに表す学力。
- ③ 思考・判断 … ある事柄と別の事柄との相互関係が説明できたり、社会事象の条件を指摘し社会事象を多面的・多角的に考察したり、社会事象の変化についての因果関係等が説明できる学力。
- ④ 関心・意欲・態度 … 学習した内容(社会科学概念や思考・判断方法)を活用して、社会科学的に、社会事象を観察したり、思考・判断したり、表現、評価しようとする学力(意識・行動傾向)。
- ⑤ 各観点の出題比率 … 「知識・理解」を測定する問題の比率を高めれば、「容易なテス

ト」になる傾向が強い。一般的には、「知識・理解」を50%程度、「資料活用」、「思考・判断」、「表現」・「関心・意欲・態度」を20%、20%、10%程度の割合にする実践が多い。

いずれの学力内容(観点)も、単一の実在ではなく、相互に補完し合っている。特に、「知識・理解」は、その基礎的な内容となるので、他の学力内容と切り離して考えることは困難。

6 主なテスト問題(方法)の特徴

(1) 完成法(補充法・穴埋め問題法)

「知識・理解」を試す問題に多く利用される方法。

問題文の内容の構成によっては、「思考・判断」を試す問題に利用できる。特に、学習後の知識を問題文中に使用して、解答を推論させたり、資料を併せて提示する方法をとれば、「思考・判断」力を試したり、応用問題を作成することも可能である。

- ① 生徒がうめる答についてヒントを与えすぎないようにする。
- ② 正解がいくつも考えられるようなまぎらわしい問題はさける。
- ③ 必要以上に文章を過度に切って、空欄をいくつもつめない。

(2) 真偽法(正誤問題法)

真偽法は、上手に作成すると、生徒の正しい陳述と間違った陳述を認識する能力を正しく測定することができる。しかし、この方法は、正解のチャンスが50%あることに注意しなければならない。さらに、真偽法では、まだ十分に解決されていない項目について問題を作成することはむずかしい。

- ① 「決して～でない」(never)、「常に」(always)、「できない」(impossible)「めったに～でない」(seldom)、「通常」(usually)、「かもしれない」(may)等の限定詞は用いない。
- ② 1つの文では、問いは1つだけにする。
- ③ 問題に対する正解がはっきりとわかるようなもの、あるいは逆に非常にあいまいなものであってはいけない。

(3) 多肢選択法(択一・短答問題法)

正解を選択させる方法、誤答を選択させる方法、グルーピングをさせる方法、接続詞を用いて思考させる方法など多様な種類がある。

この多肢選択法は、数個の選択肢をもっているもので、真偽法より推量で正答になる確率は少ないが、問題の作成は真偽法よりもむずかしい。

- ① 迷わし肢の項目は、完全に誤りであることが重要である。
- ② 正解の選択肢が選ばれるような不必要な手がかりを与えない。
- ③ 質問文と選択肢はできるだけ簡単に書く。

(4) その他の短答式テスト法

① 順序問題

「順序問題の例」

ガイドブックができるまでの順になるように、()に番号を書きましょう。

()必要な材料を集める。

()しょうかいする場所を決める。

()構成を考えて、目次を作る。

[出典]『国語の絶対評価Aテスト』(6年1学期)日本標準 2002年

② 組み合わせ問題

「組み合わせ問題の例」

つぎの1～3の言葉の意味を下からえらんで、— でつなぎましょう。

1.呼吸 ・みわたして、目でみえるはんい。

2.気配 ・なにごともおそれない、強い気持ち。

3.視界 ・息をすったりはいたりすること。

・なんとなく感じられるようす。

[出典]『国語の絶対評価Aテスト』(6年1学期) 日本標準 2002年

(5) 知識を与えて推論させる方法(自由記述法)

問題を解くのに必要な知識を問題の中で与えておいて、それを使いこなせるかどうかを試す方法。資料活用技能や思考・判断力を試すテスト問題に利用できる。

「必要な知識を与えて推論させる問題例」

前提：[日本の農業についての資料(グラフ)が複数与えられている。]

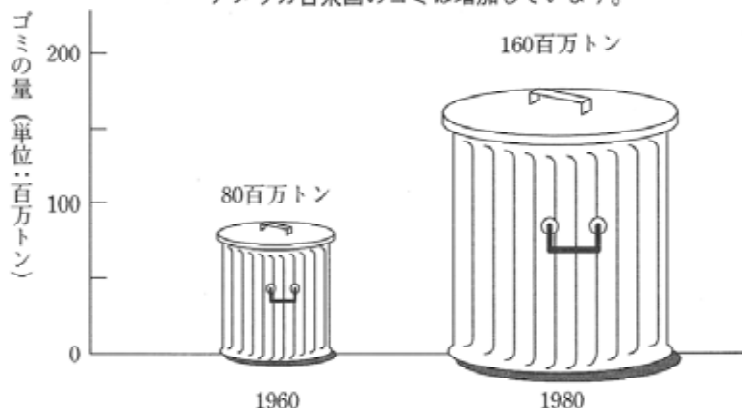
米づくりの労働時間が「前問」の答えのように変わったわけと関係が深い資料の記号を□に書き、変わったわけを[]に書きましょう。

□ []

[出典]『社会科の絶対評価Aテスト』(5年1学期)日本標準2002年

データを用いた解決を求める課題の例

アメリカ合衆国のゴミは増加しています。



上の図は誤解を招く恐れがあります。なぜかを説明しましょう。

答え：

【出典】Kenney, P. A. & Silver, E. A. (eds.), *Results from the sixth mathematics assessment of the National Assessment of Educational Progress*, Reston, VA: National Council of Teachers of Mathematics, 1997.

アメリカでは、1973年～1996年にわたり7度の全国調査が実施された。
これは、1992年度の問題で、8年生に対して実施されたもので、通過率8%

(6) 作問法(自由記述法)

「問い」を作成させることで、理解度だけではなく、理解に基づいた思考力を判定できる。また、「問い」を持つ力は、子どもたちが自律的に学ぶ力の中核であると言われる。子どもたちの「問い」が、事実を問うものか、思考についての問いなのかは、疑問詞で区別できることもある。

- 事実を問う「問い」は、「何が」「どこで」「いつ」などで始まることが多い。
- 思考について問う「問い」は、「なぜ」「～ならどうだろう」
- 事実と思考の両方を問う「問い」は、「いかに」で始まるが多い。

① 特定の形式で問いをはじめさせる方法。

既習の情報を書き並べた後で、「～ならどうだろうか?」、「なぜ … ?」、「どのように … ?」のどれかを用いて問いを作らせる方法。

- ② 特定の情報(引用文、データ表、地図、図表等)を与え、それに基づいて問いを作る方法。
- ③ 答えを提供して、問いを要求する方法。
- ④ 学習している内容でよくわからない部分についての問いや、自分を困惑させるような問い、「思考的な問い」を作らせる方法。
- ⑤ 学習した内容についての理解をテストする問題を書きなさいと指示する方法。

(7) 認知的葛藤法(自由記述法)

理科の評価方法として、堀哲夫が提唱している評価方法で、「子どもに認知的葛藤を起こすような問題や事象を提示して、それがどのように解消されるのかを分析することにより、理解の実態を評価しようとするもの」である。社会科の授業や評価でも、理解力を深めたり、思考・判断力を判定する方法として利用できる。

「認知的葛藤法を利用した問題例」
パリは釧路や根室よりも緯度が高く、北極に近いのに、冬は釧路や根室よりも10℃近く暖かい。理由を簡単に説明しなさい。(社会的思考判断)
(倉橋のオリジナル問題 1993年5月 中学1年生1学期中間検査で出題。)

(8) 文章分析法(自由記述法)

キーワードを与えて、それに関係する文章を自由に書かせ、その内容を分析し、子どもの既有的知識や考えを知る方法。

① テスト問題として利用する場合は、予め

問題文にキーワードを提示する方法と、自由記述の中から読み取る方法が考えられる。

- ② 採点は、採点基準を明確にした「**ループリック**」が決め手となる。いわゆる「評価規準表・基準表」は「**ループリック**」の一種である。
- ③ 深い理解や表現力を試す問題に利用できる。
- ④ 生徒の自己評価に利用すれば、「自ら学び自ら考える力」の評価方法として有効であるといわれている。

「文章分析法を利用したテスト例」

- (1) 次の語句をすべて使用して、封建制度を説明しなさい。 [土地 御恩 奉公]
- (2) 鎌倉幕府がおとろえた原因を、次の語句をすべて使用して説明しなさい。
[恩賞 不満 元寇] (知識・理解)
(倉橋のオリジナル問題 1997年10月 中学2年生2学期中間検査で出題。)

口頭発表のルーブリック

5ー素晴らしい	生徒は、探究した課題を明瞭に述べ、その重要性について確かな理由を提示する。導き出され、提示された結論を支持する具体的な情報が提示される。話し方は人を引き付けるものであり、文章の構成はつねに正しい。アイ・コンタクトがなされ、発表の間中維持される。準備をしたこと、組織だてたこと、トピックに熱心に取り組んだことを示す確固とした証拠が見られる。視覚的な補助資料が、発表を最も効果的にするように用いられる。聞き手からの質問には、具体的で適切な情報で、明瞭に返答する。
4ーとても良い	生徒は、探究した課題とその重要性を述べる。導き出され、提示された結論を支持する適切な量の情報が与えられる。話し方や文章の構成は、概して正しい。準備をし、組織だてたという証拠、および熱心にトピックに取り組んだという証拠が見られる。視覚的な補助資料に言及し、用いる。聞き手からの質問には、明瞭に答える。
3ーよい	生徒は、探究した課題と結論を述べるが、それを支持する情報は4や5ほど説得力のあるものではない。話し方や文章の構成は、概して正しい。準備したり組織だてたりしたという徴候がいくらか見受けられる。視覚的な補助資料についての言及がある。聞き手からの質問に返答する。
2ーさらに努力を要する	生徒は探究した課題を述べるが、完全ではない。課題に答える結論は与えられていない。話し方や文章は理解できるものの、いくつかの間違いがある。準備したり組織だてたりしたという証拠が見られない。視覚的な補助資料に言及したりしなかったりする。聞き手からの質問には、もっとも基本的な返答しか返ってこない。
1ー不十分	生徒は、課題やその重要性を提示することなしに発表する。トピックは不明瞭で、適切な結論も述べられない。話し方はわかりにくい。準備をした様子はなく、組織だてもない。聞き手からの質問に対して、もっとも基本的な返答しか与えないか、まったく返答しない。
0	口頭発表は行われなかった。

【出典】 Wiggins, G., *Educative Assessment: Designing Assessment to Inform and Improve Student Performance*, Jossey-Bass Publishers, 1998, p.166.

西岡加名恵「教育評価の方法」
田中耕治編著『新しい教育評価の理論と方法』[I]p. 89

(9) 論文体テスト法(自由記述法)

あらかじめ、教師が生徒に求めるものをできるかぎり明確にしておくことがpoint。

- ① 問題がはっきりとわかるキーワードを用いる。

◎ **求める行動に対応する語句を用いる**(参考：ブルームの認知的領域の分類)。

知識(想起)：述べる、定義する、表にする、同定する、意味をいう

理解：例を示す、要約する、解釈する、説明する、論ずる

応用：予測する、関係づける、決定する、応用する、～で説明する

分析：～の間を区別する、比較する、対照させる、～の間の関係を見分ける

統合：創造する、発展させる、示唆する、生産する、定式化する

評価：批評する、弁護する、～の理由を示す、正当化する、判断する

- ② 生徒があるわく組をもって論述することができるように、問題はかなりくわしく書く。

- ③ 問題を作成する場合、生徒からどういった答がかえってくるかをあらかじめ想定する。
もし必要であれば、問題を修正し、採点の仕方を変える。答案をつける場合、最初何枚かの答案に目を通し、場合によっては、採点基準を若干修正することも考えられる。

- ④ 採点は、採点基準を明確にした「**ループリック**」が決め手となる。

- ⑤ 採点する場合、できるだけ客観的に、一貫性をもって、公正に採点するためには、はじめに何枚かの答案を読み、教師が良いと考えた答案に点をつけておく。たとえば、生徒がある行為の過程から生まれると考えられる3つの結果について、それを予測し、説明しなければならぬ場合には、その問題に対しては総計6点とする(それぞれの予測について各1点、その説明について、それぞれ1点)。あるいは、3つの予測と、説明は2つであるが、それが十分に納得のいくかたちでおこなわれていると教師が判断した場合には、その答案に6点を与えてもよい。また、最初に、特定の採点基準を考えないで、答案を読みながら採点基準を書きとめ、それを考えながら採点していくことも方法として考えられる。

(10) 概念地図(マップ)法(自由記述法)

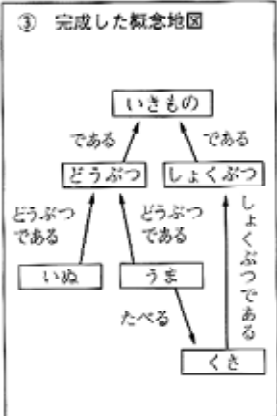
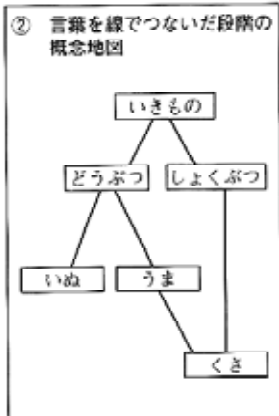
ある概念に関係するキーワード(概念ラベルという)をいくつか選び出し、それを配置し、線で結び、概念ラベル間の関係を説明し、可視的な関連図を作成する方法。

- ① テスト問題として利用するには、キーワードや事柄の結びつきを矢印で表現させる。
- ② 構造化した板書・授業とのセットになるテスト法である。
- ③ 矢印の意味を文章で説明させると思考を明らかに出来るであろう。教師の発想を超えた子どもの理解を発見することも出来る。
- ④ 作図法とあわせることで、表現力や思考力を試す応用問題に利用できる。

① 台紙の上に言葉を並べた段階の概念地図

```

graph TD
    A[いきもの] --> B[どうぶつ]
    A --> C[しょくぶつ]
    B --> D[いぬ]
    B --> E[うま]
    C --> F[くさ]
  
```



概念地図法を利用した自己評価の事例（小学校4年生女子の回答例）

*これはデパートでは取り寄せてあります。おなじ品が買えたとおりに自由に選んでください。

4年 7月 10日 名田

下向の中に、赤、お砂という「ことば」があります。この「ことば」や、この「ことば」と関係があるすべての「ことば」を一つづつ集めて書いてください。つぎに、この「ことば」「ことば」を意味のないでくさします。最後をつないだら、その間に線をひいて、どうもなげなうたのなかへいれてください。

つくった「ことば」は赤、赤、お砂のほかに、いくつ書いてもらいたいですか。また、同じ「ことば」を何回書いてもいいですよ。

つけた「ことば」を口の中に入れて、下に書いてくださいますか。

「ことば」 水 おゆ 水
つぎは「ことば」 かゆき ぬす 望み し 雪
ふしう ふしう 土曜



試驗後

- ① 水は天から落ちて 地上に落ちる
- ② 水は川や海に流れ込む
- ③ 水は大地にしみこみ、地下水になる
- ④ 水は大地から蒸発し、雲になる
- ⑤ 雲は空を飛んで、雨や雪になる
- ⑥ 雨や雪は大地や海に落ちる
- ⑦ 大地や海に落ちた水は、再び川や海に流れ込む
- ⑧ 水は大地や海にしみこみ、地下水になる
- ⑨ 水は大地から蒸発し、雲になる
- ⑩ 雲は空を飛んで、雨や雪になる
- ⑪ 雨や雪は大地や海に落ちる
- ⑫ 大地や海に落ちた水は、再び川や海に流れ込む

「ことば」 漢 英語 中

つばさ	翼	つばさ	翼	料理	おにぎり	焼く
金	かみ	金	かみ	さんざい	漬	漬

お茶



附錄

① 水は山から流れ下る。② 水は山から流れ下る。③ 水は山から流れ下る。④ 水は山から流れ下る。⑤ 水は山から流れ下る。⑥ 水は山から流れ下る。⑦ 水は山から流れ下る。⑧ 水は山から流れ下る。⑨ 水は山から流れ下る。⑩ 水は山から流れ下る。⑪ 水は山から流れ下る。⑫ 水は山から流れ下る。⑬ 水は山から流れ下る。⑭ 水は山から流れ下る。⑮ 水は山から流れ下る。⑯ 水は山から流れ下る。⑰ 水は山から流れ下る。⑱ 水は山から流れ下る。⑲ 水は山から流れ下る。⑳ 水は山から流れ下る。㉑ 水は山から流れ下る。㉒ 水は山から流れ下る。㉓ 水は山から流れ下る。㉔ 水は山から流れ下る。㉕ 水は山から流れ下る。㉖ 水は山から流れ下る。㉗ 水は山から流れ下る。㉘ 水は山から流れ下る。㉙ 水は山から流れ下る。㉚ 水は山から流れ下る。㉛ 水は山から流れ下る。㉜ 水は山から流れ下る。㉝ 水は山から流れ下る。㉞ 水は山から流れ下る。㉟ 水は山から流れ下る。㊱ 水は山から流れ下る。㊲ 水は山から流れ下る。㊳ 水は山から流れ下る。㊴ 水は山から流れ下る。㊵ 水は山から流れ下る。㊶ 水は山から流れ下る。㊷ 水は山から流れ下る。㊸ 水は山から流れ下る。㊹ 水は山から流れ下る。㊺ 水は山から流れ下る。㊻ 水は山から流れ下る。㊼ 水は山から流れ下る。㊽ 水は山から流れ下る。㊾ 水は山から流れ下る。㊿ 水は山から流れ下る。

●この問題は、あなたが「自然の中の水」の起爆をする前に書いてくれたものです。今回書いた上の絵とくらべてみて、何が変わったのか、またどうして変わったのか、そのことについてあなたはどのように思っているのかなど、できるだけ詳しく書いてください。

+1) 水と硝酸との割合を n としたとき、 $\frac{n}{n+1}$ の濃度の硝酸が得られる。

2/12に於て(2)より
 1/12 水から 雪道へ 氷の付いた雪 2/12 17℃
 氷から 氷雪の混合状態へ 氷の付いた雪 2/12 17℃

堀哲夫「キーワードを用いた評価方法の開発」

資料編 - 9 -

[参考文献]

- 文部省『小学校 学習指導要領』平成10年12月
- 文部省『中学校 学習指導要領』平成10年12月
- 文部省『小学校学習指導要領解説』－社会編－ 平成11年 5月
- 文部省『中学校学習指導要領解説』－社会編－ 平成11年 9月
- レイヒ／ジョンソン 宮原英種監訳『教室で生きる教育心理学』新曜社 1983年2月15日
- 田中耕治編著『新しい教育評価の理論と方法』[I] [II]日本標準 2002年10月15日
- 田中耕治『学力と評価の"今"を読みとく』日本標準 2004年8月1日
- 田中耕治編著『教育評価の未来を拓く』ミネルヴァ書房 2003年10月10日
- 田中耕治『学力評価入門』法政出版 1996年6月10日
- 石田恒好・木下康彦編集『中学校社会 こうすればできる観点別評価の手順』図書文化1994年7月
- 北尾倫彦・祇園全禄編集『中学校社会 観点別学習状況の評価基準表』図書文化1994年5月20日
- 亀井浩明・佐野金吾・高橋秀美編『中学校 観点別評価の実際』社会編 教育出版1993年10月
- 北俊夫編著『社会科「関心・意欲・態度」の評価技法』明治図書 1993年12月
- 文部省『小学校社会指導資料 新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造』平成5年9月
- 篠原昭雄編『社会科地理的分野の達成度評価』明治図書 1983年4月
- 柿沼利昭編『社会科公民的分野の達成度評価』明治図書 1983年4月